

- 1 本箱の本のたて横桜どき
- 2 風の音拾ひ集めて梅ひらく
- 3 花冷えや色とりどりの切手買ふ
- 4 しやぼん玉楯円はやさしさのかたち
- 5 来客はいつも突然花ぐもり
- 6 春の虹すべては明日へ繋がれり
- 7 マウス右左蛙の目借時
- 8 幼子の指示へ従ふ遅日かな
- 9 花の夜わたしのなかの天邪鬼
- 10 スイトピー前向きになるときは晴れ
- 11 春風やポストに赤といふ決まり
- 12 涅槃会や雲を動かす風わずか
- 13 春の風小鳥との距離縮まらず
- 14 しやぼん玉空色となる高さかな
- 15 寄り道の蝶に寄り添ふ蝶の影
- 16 春風やまとまりのなき木々の揺れ
- 17 春の風邪白雪姫の眠りかな
- 18 陽炎へ不思議の国のアリスかな
- 19 本心はほたる袋に隠しけり
- 20 夏の月どこにも売つてゐない色
- 21 飛んできて天道虫となりにつけり
- 22 香水を少し時間はあと少し
- 23 奥の手の簡単レシピはたた神
- 24 短夜の仕上げは軽く塩こしょう
- 25 しやつくりの続きのはなし梅雨晴間
- 26 夏の夜を少しはみ出す笑ひ声
- 27 下町の娘のむすめ夏柳
- 28 梅雨明けるからまる紐を解くやうに
- 29 教会の窓六月の海のあり
- 30 扇風機回して好きになる時間
- 31 ひまはりやもうすぐといふ時差のあり
- 32 遠花火音だけ届く風の位置
- 33 それぞれの日傘の中にある時間
- 34 香水の残り時間のありにけり
- 35 あめんぼの水の幾何学模様かな
- 36 猫を見るついでに金魚売場かな
- 37 夏めくや通勤時間だけの空
- 38 傘立ての配色夏至となりにつけり
- 39 夕焼けの色吸ひ込みし川面かな
- 40 メロン切る第一声の断面図
- 41 励ましてくれてゐるかも蝉時雨
- 42 首すじの髪の高さに隠す汗
- 43 夕焼けと雲の離れてゆくところ
- 44 足し算はパセリのみじん切りの色
- 45 祭り果て取り残される夜空かな
- 46 夕立へ飛び込むスタートラインかな
- 47 葡萄ひとつづ指先の記憶力
- 48 秋夕焼無口になつてしまふ色
- 49 青みかん一時間後といふ未来
- 50 ピアスはづして秋の夜をしめくくる

75 しほれるだけしほる雑巾冬はじめ
 74 かかとかから生まるるリズム冬はじめ
 73 歯ブラシを二本並べて冬に入る
 72 大嚏すれば知らない人ばかり
 71 日常になつてゆくこと大根煮る
 70 黄落のひとつひとつに別の色
 69 秋深しときどき風の効果音
 68 秋の風くぐらせる窓ありにけり
 67 蕎麦刈るや平らな空となりにけり
 66 先生は先生のまま墓洗ふ
 65 稲妻と音のあはひの闇ふかし
 64 長き夜乾かす髪に残る熱
 63 割り切れぬ数字のやうな秋思かな
 62 本閉ぢるまでの夜長となりにけり
 61 いわし雲橋の向かうにある母校
 60 ため息をつき秋風へ乗せにけり
 59 矢印の一途なかたち秋の水
 58 かくかくしかじか秋の夜の仲直り
 57 紅葉かつ散る題名の長き本
 56 秋桜走れるところまで走る
 55 窓越しといふやはらかき虫の声
 54 いわし雲時間をつぶすための時間
 53 銀杏散る一番近いポストまで
 52 水たまり月をこぼれてきたばかり
 51 しあはせな人に集まる赤とんぼ

100 両耳に一月の風受け止める
 99 笑ふところ同じ焼き芋半分に
 98 マフラーを巻いてほぐれる体かな
 97 十二月肯定的な傘の色
 96 冬構して玄関の鍵ひとつ
 95 占ひ師の言葉半分時雨けり
 94 海鼠嚙む途中に変はる話題かな
 93 凍星や指さす夜の広すぎる
 92 半分の大根を買ふ迷ひかな
 91 体温の指輪をはずし冬の夜
 90 飼ひ猫の欠伸のやうに着脹れる
 89 円描く風の落ち葉のうらおもて
 88 ビニールの傘に時雨の色かたち
 87 白コート置くセミナーの堅き椅子
 86 日脚伸ぶすべりの悪いすべり台
 85 葱の白煮物の色に染まりけり
 84 暖房の効きすぎてゐる握手かな
 83 冬の星水のにほひの窓辺かな
 82 人参を嫌ひなままの誕生日
 81 川幅に冬の太陽定まらず
 80 湯豆腐や友達の友達のこと
 79 三回目の途中で止まる嚏かな
 78 早足を止める改札冬はじめ
 77 夫の風邪移らぬこともありにけり
 76 咳ひとつして驚かすつもりなし